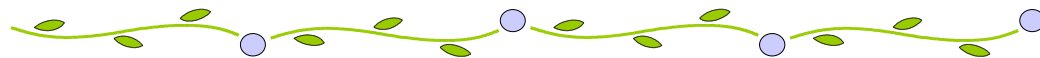


市川を調べる

編集 市川を調べる会(会長・星 一郎/事務局・木村隆一)
発行 八戸市立 市川公民館 (館長 氣田 武男)



【お知らせ】 広報紙「市川を調べる」の各号がインターネットに掲載されています。
〈検索方法〉 ⇒①インターネットに接続 ②「八戸市立市川中学校」のホームページ
③「市川を調べる会」にアクセス。(少し時間がかかります。)

下市川小學初代校長 林 忠 蔵【I】

轟木下 木村 隆一

1. 誕生から会津藩を去るまで

林忠蔵光和は、文政10年(1827年)8月6日会津若松に生まれる。父の名前も忠蔵。母の名はいし子。林忠蔵光和は、博識と多才な士として知られ、**日新館**(会津藩の藩校)では、子弟の教育を適切に行ったことが評判となった。その後抜擢されて藩の役人となり、藩主に謁見できるような階級にまで上りつづけた人物である。

慶応4年(1868年)に始まる**戊辰戦争**の一部をなす**会津戦争**では、家老・一ノ瀬要人隆知の参謀として従軍。越後方面に出陣し、隆知を補佐して功績があった。

子どもは、長男**八十治**(嘉永6年:1853年生まれ)・二男**茂樹**(安政5年:1858年生まれ)・三男**興子**(文久2年:1862年生まれ)・四男**梧楼**(明治4年:1871年生まれ)の4人兄弟であった。※(長男の**林八十治**は、**白虎隊員**として**鶴ヶ城**を望む**飯森山**にて**自刃**・16歳):林忠蔵の子ども等については、次号にて紹介いたします。)

2. 斗南藩の成立 そして下市川へ

戊辰戦争・会津戦争に敗れた**会津藩(23万石)**は、明治3年(1870年)陸奥国北郡(現在は上北と下北郡)・三戸郡・二戸郡に3万石を与えられて**斗南藩**が成立。当初五戸代官所に藩庁を置いたが、後に田名部の円通寺へ移転。会津から土族など17,000人余、戸数4,300余が移転。しかし、斗南藩3万石とは名ばかりで、実高は7千石程度に過ぎず、生活は過酷を極めたという。斗南藩庁での林忠蔵は、試補官という職名で開拓課の仕事をしている。1871年(明治4年)に廃藩。弘前県・黒石県・八戸県・館県との合併を経て青森県に編入。

林忠蔵ら一行が、下北・岡三沢を経て明治5年(1872年)に浜市川の橋向に定住。(野口氏・高橋氏も同道か?)
下市川小學(現在の多賀小学校-前田英規校長)が開校される明治8年(1875年)10月29日(轟木小學は翌明治9年5月5日開校)まで**願叶庵**で寺子屋を開いている。(創立当時は男子31名) 明治9年(1876年)5月には橋向に校舎を移し、明治13年12月までもたちの教育に情熱を注い

「八戸市教育史(上)」には【明治11年の県下の就学率は全学齡児童に対して26%に過ぎなかったが、轟木小は100%。また、下市川小では障害児にまできめ細やかに教育をしているのを見て、〈当国ノ人民八概スルニ愚且狡、牛馬ト同シク棲息〉し、〈異邦特域ノ人ニ相近



斗南藩庁：五戸代官所跡（復元）

の5年余、校長として子どもだ。

キ」といった中央の官吏も、わずか3年でこのように改善されたことに驚嘆した」と記している。(続く)

参考 「流れる五戸川」
「会津藩 斗南へ」
「なみおと(多賀小120周年記念誌)」
「白虎隊事跡」
「白虎隊勇士列伝」
「飯森山自刃者名簿」

